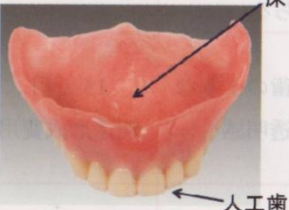


第六章 入れ歯

余儀なく歯を失ってしまった場合には、歯の代用が必要になります。抜けた部分が1~2本の少数の場合は健全な隣の歯を削って橋渡しをする「ブリッジ」や「インプラント」で機能回復を行います。インプラントの場合は2本、3本の連続欠損であっても、健全な隣の歯を削りません。ところがブリッジの場合は欠損数が増えれば健全な両隣の歯では支えきれないため、さらに隣の歯まで削る必要があります。3本の欠損のために健康な歯を4本、5本と削る必要があるのです。したがって、複数本の欠損の場合は健全な歯を削らない入れ歯にすることになります。ただし入れ歯の場合は皆さんがバネと呼ぶ「クラスプ」を健全な歯にひっかけて安定させるため、脱着時や咬合時に負担がかかり、歯根破折や歯周病になりやすくなるため注意が必要です。

●入れ歯の構造

 床 人工歯	総入れ歯 総入れ歯には固定するための歯がありません。床と粘膜との適合性を高めて安定させます。 床と人工歯で構成されます。
 リンガルバー クラスプ 床 人工歯	部分入れ歯 残った歯にクラスプを引っかけて固定します。床と人工歯、クラスプ、リンガルバーなどで構成されます。

●保険適用の入れ歯

入れ歯も補綴物と同様、保険の範囲内での治療には限界があります。国民皆保険のコンセプトは「とりあえず機能回復」のため、材料や入れ歯の設計に制限があるのです。患者さんの口の中は千差万別です。医療として理想と考えられる材料や入れ歯の設計をしてみても、それを選択できないジレンマが保険の入れ歯には必ずあります。

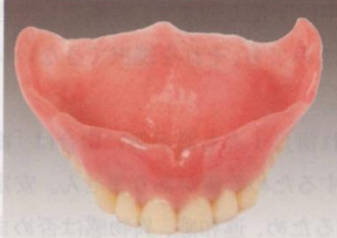
歯が残っている場合の入れ歯を「部分入れ歯」、1本も歯が無い場合は「総入れ歯」と呼びます。総入れ歯には固定するための歯がありません。安定させるには床と呼ばれる部分を大きくするため、違和感、異物感是否めません。部分入れ歯の固定は残った歯にクラスプを引っかけて、浮き上がりや横ずれを防止します。クラスプを掛けられた歯にはかなりのダメージが加わります。部分入れ歯にすると歯の数が徐々に少なくなるのはそのためです。

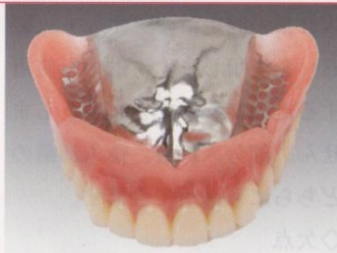
●自費治療の入れ歯

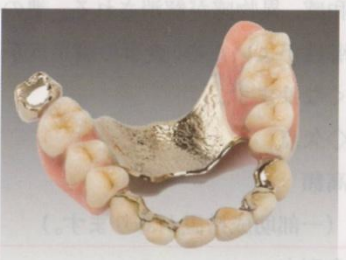
自費治療の入れ歯には、材料選び、固定方法の設計に制限がありません。違和感のある床を薄くて軽い材料にすることも、噛みごたえや耐久性の高い人工歯にすることも可能です。

保険の入れ歯では「床」に使用できる材料はプラスチックレジンです。プラスチックレジンは強度を確保するため、厚くする必要があります。自費治療の場合、床を金属に置き換えることができるため、薄くて軽く作ることができます。上顎の場合、床が覆う部分に「口蓋難壁」と呼ばれる感覚受容に重要なエリアがあります。この部分を出来るだけ覆わない設計にするには保険の入れ歯では強度的に難しいのですが、自費治療では使用材料に制限がないため可能になります。また、入れ歯の固定源にインプラントを使用する方法もあります。

●画像で見る、保険治療と自費治療の違い

保険適用材料	
画像	特徴
 総入れ歯・プラスチック樹脂	◇利点 保険適用につき窓口負担分の費用で作ることができる。 ◇欠点 素材がプラスチックのため強度に不安があり、補強のため厚くするため違和感、異物感がある。
 部分入れ歯 (プラスチック樹脂)	◇利点 同上。 ◇欠点 残った歯を固定源にするため将来きには歯を痛めてします。クラスプが目立つため、審美的にはやや不満が残る。
 部分入れ歯 (一部金属使用)	◇利点 同上。上に比べてやや強度があり小さく作ることができる。 ◇欠点 残った歯を固定源にするため将来きには歯を痛めてします。クラスプが目立つため、審美的にはやや不満が残る。

自費治療用材料	
画像	特徴
 総入れ歯 (金属床)	◇利点 床を薄くすることができるため違和感、異物感が解消される。熱の伝導性がよいため、食事の満足度が高くなります。 ◇欠点 高額 (一部助成措置があります。)
 部分入れ歯 (金属床)	◇利点 床を薄くすることができるため違和感、異物感が解消される。熱の伝導性がよいため、食事の満足度が高くなります。 ◇欠点 高額 (一部助成措置があります。)
 ノンクラスプデンチャー	◇利点 入れ歯の固定に金属のクラスプを使用しないため、見た目を気にされる方には向いています。 ◇欠点 壊れた場合に修理ができません。

画像	特徴
 マグネットデンチャー	◇利点 入れ歯の固定にマグネット（磁石）を使用します。磁力を使用するためクラスプを必要としません。部分入れ歯、総入れ歯のどちらにも適用できます。 ◇欠点 MRI 検査ができなくなります。
 テレスコープデンチャー	◇利点 内冠と外冠の拮抗作用を入れ歯の固定に使用するため、クラスプを必要としません。 ◇欠点 やや高額なことで、固定源の歯に少なからず、負担がかかります。

●入れ歯を入れていないとどうなるの

人間には 28 本から 32 本の歯があります。上下、左右それぞれがバランスをとりながら生えています。つまり 1 本でも失ったまま放置しておくと色々な障害が発生します。

・歯の移動

歯が移動するのは、矯正治療が可能であることから理解できますよね。

通常歯が移動していると感じないのは、隣の歯や上もしくは下に噛み合わせる歯で支え合っているからです。満員電車の中で人と人が重なり合っている時はそれほど動きませんが、駅に着いて扉が開くと、いっせいに崩れるようなものです（やや表現がオーバーですが）。

・歯が移動した場合の弊害

歯が移動すると次のような弊害があります。

：噛み合わせが低くなるため、顎関節に障害が発生する。（顎関節症）

：顎の動きと歯の形態のバランスが崩れるため、顎関節障以外に歯が欠けたり、骨が吸収し易くなる。

：骨が吸収すると歯周病と同じ症状になり、歯が抜ける。

：歯並びが悪くなる。

●入れ歯の洗浄方法

患者さんか入れ歯も歯みがき粉で歯磨きするのですか？」と聞かれることがあります。答えは「△」です。洗浄の基本はブラッシングですから、軟らかめの歯ブラシで綺麗にすることは間違いではありません。ただし、歯磨き粉には研磨剤が入っているので、入れ歯に微細な傷をつけてしまいます。入れ歯に傷がつくと口の中の細菌が溜まりやすくなり、入れ歯特有の臭いの原因になります。最近の入れ歯洗浄剤には除菌効果もありますので、入れ歯専用洗浄剤の使用をお勧めします。



また、総入れ歯と部分入れ歯では洗浄方法が違います。部分入れ歯にはクラスプなども付いており、ブラシ洗浄をする際には壊さないよう注意が必要です。入れ歯は思ったよりも汚れていますので、毎日のメインテナンスは欠かせません。入れ歯は口の中に入ってから、人工臓器に変わります。健康を維持するためにも大切に扱ってください。

第七章 矯正治療

矯正治療を美容整形のように考えてみえる方も多いと思います。実際に矯正を希望される患者さんのほとんどは歯並びの改善です。

私たちは矯正を単なる美容整形とは考えていません。噛み合わせを重要視した機能美を追及しています。

●不正咬合

「不正咬合」とは、歯並びが悪く正しい噛み合わせで噛んでいない状態です。叢生、上顎前突、反対咬合などは見た目に判りやすいため、審美的な改善を希望して来院されます。また、前歯の歯並びがきれいでも奥歯の噛み合わせが悪い場合、上下の噛み合わせが左右にずれている場合など様々です。

・不正咬合の問題

ひと昔前なら八重歯もチャームポイントのひとつでした。八重歯のアイドルも結構いたのですが、医学的な見地からは将来的には困るだろうなと思っていたものでした。この場合の将来的にとは、日本人の美的センスが変わって八重歯がチャームポイントではなくなることはありません。肩こりや片頭痛に悩まされるという意味です。八重歯とは真中から3番目の犬歯の生え方に異常があることです。犬歯は下顎の動きを誘導する役目があります。上下の犬歯の微妙な関係が顎の関節の働きに関与しています。八重歯の患者さんは上下の犬歯が噛み合わないため、顎関節にダメージを与えます。顎関節周囲には重要な血管や神経があり、それが刺激を受ければ痛みにつながります。また不正咬合は全身のバランスを崩すとも考えられています。右の噛み合わせが狂うと右の肩が持ち上がります。すると、骨盤の左が持ち上がり、右の膝に負担がかかるという具合です。

・不正咬合の種類



叢生（八重歯）



開口



正離隙（すきっ歯）



反対咬合（受け口）

●治療方法

矯正方法には大まかにわけて2種類の考え方があります。

歯を抜く矯正（抜歯矯正）と歯を抜かない矯正（非抜歯矯正）です。

・抜歯矯正

顎の大きさに対して歯が大きいことが原因で叢生になっていると考え、余分と思われる歯を抜いて歯並びを整える方法。

・非抜歯矯正

上下の奥歯の噛み合わせ位置のズレが叢生の原因と考え、奥歯の位置関係を整えて歯並びを整える方法。

どちらの方法にもメリット・デメリットがあります。私たちはどちらの方法が正しい、正しくないと判断するのではなく、患者さんの年齢、顎の大きさ、歯の大きさなどを診査したうえで最適な方法を選択して効果的な矯正を行います。

● 矯正装置の一例



《メタルブラケット》

メリット

金属製のメタルブラケットは丈夫で、多くの不正咬合の種類に対応することができます。

デメリット

装置が銀色のため目立ちます



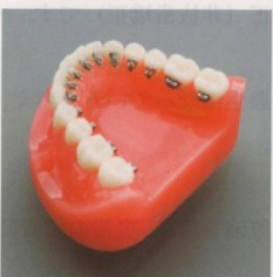
《審美ブラケット》

メリット

透明や歯の色に近い白いブラケットのため、装置がメタルブラケットよりも目立ちにくいです。

デメリット

メタルブラケットと比較すると、多少強度が弱いと言われています。



舌面ブラケット

メリット

歯の裏側に矯正装置をつけるので、表側からは矯正装置が見えづらいです。周囲の人から気付かれずに矯正治療を行うことができます。

デメリット

装置に慣れるまで舌が装置にあたる違和感や、発音がしにくい場合があります。

● 矯正治療中の注意点

矯正中は歯面にブラケットと呼ばれる装置を接着しています。そのため歯磨きがしづらい時期があります。歯磨きを怠ると虫歯や歯肉炎にならないよう専用の歯ブラシを使用して丁寧に磨いてください。矯正中の調整は歯の移動を確認することと、口の中のメンテナンスも兼ねているため、医師の指導に従ってください。

Column

「歯並びが一生を決める？」

歯科医療機関側がこのようなキャッチコピーをかけると、「結局審美の話でしょ!!」って思われる方も多いと思います。ところが矯正治療によって改善された噛み合わせにはこんな効果があるのです。

- ・正しく噛めるようになると脳への血流が良くなる。
- ・脳への血流が良くなるため、酸素供給が多くなる。
- ・その結果、集中力、記憶力が増す。

マウスを用いた実験では、脳への刺激が増すと空間把握能力が増すことが証明されています。

考えてみれば脳は頭と顎の中にあるわけですから、外的に鍛えてあげるとしたら、噛むことによってしか伝わりません。歯根膜から脳へ伝わると、脳内でアセチルコリン増えるのです。これは学習能力に深く関与する物質です。アルツハイマー型認知症は、アセチルコリンが減ることが原因のひとつであることが判ってきました。アルツハイマー型認知症と残存歯数の関係が注目を集めています。実際に健康な人の残存歯数よりもアルツハイマー型認知症患者さんの残存歯数は少ないとのデータがあります。

認知症などでケアホームに入所すると、誤飲防止のため義歯を外されてしまいます。すると噛む力が脳へ伝わりにくくなり、さらに学習能力が衰えてしまうのはこのためです。